広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第34号　2006. 3〉

小学校の総合学習における情報教育の単元開発

吉田　裕久　　景山　三平　　赤井　利行　　大後戸一樹
中田　晋介

1．はじめに

現在第６学年で実践を進めている「ディスカバー附属小」は，公立小学校の総合学習でも取り上げられることの多い，母校の歴史や自分たちの小学校生活の歩みを振り返るというテーマに即した活動である。本校ホームページ上で卒業生にアンケートを行ったり，実際にインタビューに出向いたりしながら，記録をまとめ，静止画や動画をも盛り込んだ DVD を作成する予定である。しかしながら，これらの活動は，基礎的な情報活用能力を育成していないと，実現することはできない。そこで今回，附属小学校100年の歩みを振り返る DVD を作成するために，これまで進めてきた情報教育で培った情報活用の実践力も考察の対象とする必要がある。具体的には，平成12年度から２カ年計画で進めた大単元「ひろしま再発見」（３・４年）も含めて，情報活用の実践力の育成に重点をあてて構成した総合学習の授業実践を検証し，単元開発を行う。

2．大単元「ひろしま再発見」について

(1) 単元について

単元「ひろしま再発見」では，広島について改めて知ったことをホームページに表し，子どもたちの情報活用の実践力を育成することを目的として設定した。

子どもたちは，この単元において「広島城での見学」「能美島での体験学習」「郷土資料館での見学」「お好み焼きづくり体験学習」「宮島での見学」「広島市中心部の見学」などの７ページのホームページを制作した。出来上がったホームページをインターネット上に公開した。制作したホームページについて同じ学級の友だちとの意見の交流や１部３年の友だちとの意見の交流を行った。また昨年度「ひろしま再発見」の単元を学習している４年生のお兄さんやお姉さんとの意見の交流を行った。

４年生では，３年次の内容を踏襲しながらも，地理的，歴史的，人的に，その対象範囲を深く，広くしたいと考えた。その意味でも，特に秋の総合学習特設単元「林間学校」において，ここ数年継続している西城町立西城小学校との交流の意味に着目した。西城小学校は，広島県北部に位置し，全校児童100名あまりの小規模校である。同じ広島県内にありながら，その特色は本校と大きく異なる点が多い。しかしながら，歴史を紐解けば，戦時下において本校児童が学童疎開した，まさにその地であり，当時の記憶を未だリアルに残している方々も多い。

(2) 活動目標

総合学習の年間テーマを「ひろしま再発見」と設定し，広島の文化・歴史・自然などを総合的に学習することで，国際平和都市「広島」に生きることの意味を考える。更に，子ども一人一人が，自らの問題を設定し，子ども自身の力で解決し，その解決過程を振り返ることで，自分自身の学びの質を高めていくことができるようにする。

(3) ホームページづくりを行う意図

調べたことを紙に書いて表現することは，紙面でも構わないことである。しかし，あえてホームページで表現するということは，紙面とは違った以下の効果があると考える。

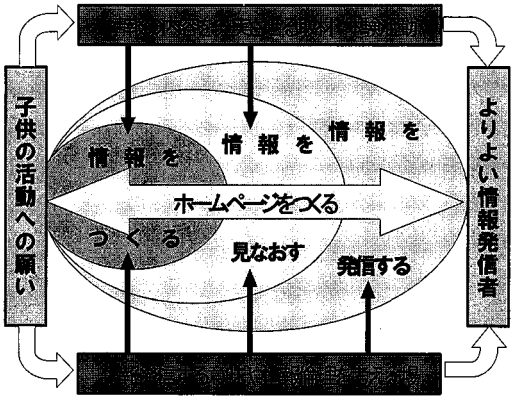
① インターネットで発信することで，調査対象について深く見ようとする態度が生まれる。
② インターネットで発信することにより，豊富な意見がもらえる。
③ 紙面を汚さないで何度でも書き換えが可能であること。

(4)「ひろしま再発見」での情報活用の実践力能力について

情報活用の実践力の育成には，実際に子どもたちが情報を利用した活動に取り組む必要があると考えた。そこで，ホームページづくりを主軸とした活動を通した活動を仕組んだ。子どもの活動への願いを出発点にし，「情報をつくる」段階，「情報を見直す」段階，「情

Hirohisa Yoshida, Sanpei Kageyama, Toshiyuki Akai, Kazuki Osedo, Shinsuke Nakata : Unit development of information education in composite learning of an elementary school

報を発信する」段階と活動を分けた。「情報をつくる」「情報を見直す」段階では，情報の内容を充実させる取材・体験活動を重視した。「情報をつくる」「情報を見直す」「情報を発信する」それぞれの段階において，情報の受信者を視野に入れた情報倫理について考える場も設けた。ホームページづくりを通して，活動することでよりより情報の発信者となり，情報活用の実践力が育成されると考えた。



(5)活動の実際

調査・見学をベースにした子どもたちの調べ学習を中心とした追究を保障していくために，積極的に見学へ出かける機会を設けた。黄金山へ登り，高台から広島の様子を見た。そのことから広島で見学したい場所がいろいろと出された。児童の安全面・健康面を考え，見学可能な場所から見学を行った。広島城，郷土資料館，宮島，基町クレド，シャレオ，広島市民球場などである。本校から宮島へ出かけるには，ＪＲと船を利用することになり教員３名だけでは十分目が行き届かないと考え，保護者の方にご協力いただき見学を行った。それぞれの見学地では，ホームページをつくることを前提に活動しているので，子どもたちは，たくさんのことをメモしたり，質問したりして意欲的に活動していた。体験活動では，普段子どもたちがあまり食べることのない関西風お好み焼きを食べ広島風のお好み焼きとを食べ比べた。また，広島に住んでいながらあまり食べたことがない広島牡蠣を調理していただき，「かきめし」「かきフライ」を食べた。見たり，聞いたりするだけでなく実際に食べてみての自分なりの感想をホームページに掲載している子もいた。このように取材・体験活動を繰り返し行い，ホームページも更新していった。子どもたちのホームページは，保護者や兄弟が度々閲覧し，感想や改善点を示唆してくれた。その意見をもとに更にホームページの更新が行われ，見る人を意識したホームページづくりを行うことができた。３年生での活動は，身近な人との交流が主となっていた。

４年生では，交流範囲と活動範囲を広げ更に情報活用の実践力の育成をめざした。具体的な活動としては，比婆郡の西城町立西城小学校との交流を設定した。西城小学校との交流については，当日の交流を，両校の代表児童が事前に打ち合わせしながら，子ども主体で企画・運営できるようにするために，ホームページ上に掲示板を設けた。この掲示板を活用し，互いにプログラムやレクレーションで行うゲームを相談したり，司会やゲームの説明などの役割分担をしたりすることができた。

当日の交流会では，レクレーションをするだけでなく，昼食も一緒に食べることもできた。

また，交流会後も，この掲示板上で感想を述べあったり，それぞれの学校行事の報告をしあったりと交流が継続した。

これらの活動を通して，交流の背景となった歴史的な事実を知らなかった両校の４年生同士が，主にインターネット上で交流を深めた。これまでの不特定又は，保護者に向けたホームページづくりが，目を通してくれる特定の誰かを思い浮かべながらの活動につながることは，子どもの目的意識を高めるものともなった。

３．大単元「ディスカバー附属小」について

(1)単元について

2005年(平成17年)は，附属小学校創立100周年の節目の年にあたる。過去の節目において，学校として附属小の記念誌を発行してきた。その記念誌には，過去の出来事や学校の様子の写真など様々な貴重な資料が掲載されている。

過去の記念誌は，それ自体が貴重な資料となっておりなかなか子どもたちの目に触れる機会もない。また，その記念誌を振り返りながら附属小の歴史を見つめ直すという活動もあまりされて来なかった。

そこで，附属小の歴史を振り返りながら，今の子どもたちが発見したことや感じたことを DVD にまとめ，記録として残し後輩へも伝えていこうという５・６年の２年計画を見通した活動である。

具体的には，過去の卒業生や過去勤務されていた先生方にインタビューし，年代毎に現在と比較を行いながら，今と何が同じで何が違うのか発見し，子どもの感想などをまとめていく。

ホームページ形式でまとめ最終的には，DVD へ保存する。HTML を用いて画像を取り入れるだけでなく，音声，動画などを取り入れ動く記念誌を制作していく。どの卒業回の方が見られても，懐かしく感じ，

また現在の附属小の様子について知ってもらえる創立100周年の記念誌にする。まとめる子どもたちはもちろんのこと，卒業生の方々も新たな発見ができるまさしく世代を超えた「ディスカバー附属小」をめざす。

本小単元「創立100周年記念のDVDづくりの計画を立てよう！」は，「ディスカバー附属小」の導入場面に位置づけた小単元である。よってこれから始まる１年半の活動の見通しをもてるようにすることがもっとも重要なねらいとなる。

そのために３・４年で行った「ひろしま再発見」の活動計画をもとに，本単元を構成した。「ひろしま再発見」も２カ年計画の大単元であり，様々な場所へ見学に行き，それをホームページにまとめるという活動を繰り返し行った。その際，行ったのが大単元の導入で「広島らしさ」のウェッビングマップづくりである。最初に一人一人で，それからグループに，そして最終的に学年全体で話し合うという過程を経ていくなかで，全体での見学候補地を選定していくことができたし，またそれらを個人的に興味のあることと関連づけていくこともできた。子どもたち自身が今後の活動の見通しをもつために，とても有効な活動であったと判断している。そこで，今回も大単元の導入場面でも同じ活動を取り入れ，全体としての大まかな方針を見定めるとともに，それらを子どもたちそれぞれが興味をもっていることにつなげられるようにした。

ただ，今回の活動が大きな異なるのは，リーダー会を組織することである。昨年までは，見学の場所や時期を指導者側がすべて決めていた。それを今回は，活動の内容や方法，それにともなう要望を，リーダー会が中心となって協議し提案するという運営形態をとることにした。リーダー会は，全体での話し合いによって出された意見を集約，分類し，それぞれのグループにリーダーとして分かれる。グルーピングもリーダー会が行う。今後の活動が，子どもたちの手で進められていくためには，この会が有効に機能する見通しがもてることも，重要なポイントになる。

自治的な活動を導入することで，今まで培ってきた情報活用の実践力の質を高めることをめざしている。

(2)活動目標

総合学習の年間テーマを「ディスカバー附属小」と設定し，附属小学校の歴史を総合的に学習することで，附属小学校で100周年を迎える児童としての意味を考える。更に，子ども一人一人が，自らの問題を設定し，子ども自身の力で解決し，その解決過程を振り返ることで，自分自身の学びの質を高めていくことができるようにする。

(3)小単元「創立100周年記念DVDづくりの計画を立てよう！」について

① ねらい

○　６年生のときに迎える創立100周年を記念するDVDづくりの意義を理解し，DVDに載せたいことや知りたいこと，調べたいことを考えることができる。

○　ホームページづくりの学習を踏まえて，DVDの目次をイメージしながら，みんなから出た意見を分類することができる。

○　これからの活動において，必要なこと（写真や書物，ビデオ映像，関係者へのインタビューなど）を具体的に挙げ，今後の見通しをもつことができる。

②小単元の概略（教材について）

本小単元「創立100周年記念のDVDづくりの計画を立てよう！」は，「ディスカバー附属小」の導入場面に位置づけた小単元である。よってこれから始まる１年半の活動の見通しをもてるようにすることがもっとも重要なねらいとなる。

自治的な活動をめざすために，リーダー会を組織する。リーダー会は，全体での話し合いによって出された意見を集約，分類し，それぞれのグループにリーダーとして分かれる。グルーピングもリーダー会が行う。今後の活動が，子どもたちの手で進められていくためには，この会が有効に機能する見通しがもてることも，重要なポイントになる。

③活動計画

Ⅰ　「広島大学附属小学校」といえばのウェッビング……４時間

Ⅱ　DVD作成に向けてのグループづくり‥２時間

④授業の実際

Ⅰ　「広島大学附属小学校といえば」のウェッビング

まずは，これから２年間で行う大単元「ディスカバー附属小」の概略について次のようなことを説明した。

・来年度，広島大学附属小学校が100周年を迎え，そのときの最上級生として歴史の１ページに立ち会う私たちの責務。 ・新たな歴史を創っていく上で，母校の辿った足跡をまとめる意義。 ・４年生までの活動で身につけてきたホームページ作成の力を生かして，２年間の活動の成果をDVDとしてまとめること。 ・DVDの内容は，多くの卒業生を含めた幅広い年齢層を対象にしたものにしていくこと。

その後，３・４年の２年間で行った「ひろしま再発

見」の活動でも最初に行ったように，今度の方向性を見定めていくためのウェッビングを行った。中学年のときに，まず個人で，それからグループで，最後に全体でと，段階をおってウェッビングを行ったので，本単元でも同じ方法をとった。

最初に，一人一人で「附属小」をキーワードにウェッビングを行った。そのときの児童のウェッビング図は，次のようなものであった。ただ，この際，提示した「附属小」では，自分たちの経験の範囲でしか発想ができておらず，大切な観点であると指導者側で考えていた歴史的な視野を含み込んでいくためにも，「100周年」というキーワードを付け加え，再度幅広い年齢層の卒業生の方々が対象の DVD 作成であることを確認した。

そうすることで，子どもたちは改めて，自分たちが学校生活を送っているのは現在の附属小学校の姿であり，これが過去の姿と一致するのかどうかに疑問を持ち始めた。すると，「７月に行った臨海学校は，いつから始まったのだろう？」「最初の校舎も，この場所にあったのだろうか？」「昔から教育実習があったんだろうか？」「校歌の意味は何なんだろう？」など，自然と子どもたちのつぶやきが生まれ始めた。昔の様子を調べ，今と比べてみるという視点をもった子どもたちは，普段当たり前のように過ごし，経験している学校でのいろいろな出来事をも書き込み始め，図１にあるように，ウェッビングが広がっていった。

そして次の段階，グループでのウェッビングに入った。グループは６～７人の生活班を利用し，全員の図をつきあわせながらの話し合いが始まった。

まずは，みんなの図にある言葉を，画用紙に書き込んでいく。それぞれの相違点が見え始めると，共通する言葉や重要な観点は，大きな字や色ペンを使って強調し，DVD 作成の趣旨に沿わないと思える項目は保留される。こうして，個人で作った図よりもその項目のつながりが少し整理されてくる。と同時に友だちの発想をもとに新たな項目が加わり，さらなるつながりが増えていく。グループでのウェッビングで，活動に特に大きな変化が現れるのは，個人での作業が進みにくかった児童である。これは，他者との関わりによって，自分の書いていたことを大きな項目と関連づけられたり，他の言葉に置き換えられたりすることで，いろいろ思い浮かんでいたこととのつながりが整理できたりするのだと考えられる。

グループでの活動の最後は，次の全体での話し合いに向け，２つ観点から意見をまとめるようにした。１つ目は，DVD のトップページに載せるであろう目次の項目をイメージしながら，グループ内で重要だと合意できたこと，もしくは載せるとおもしろそうなことを挙げる。２つ目は，それらを DVD にどのように掲載すると効果的かを考え，掲載方法のアイデアを提示することである。

そして，日を改めて，最終的に各グループで話し合われたウェッビングをもとに，学年全体での話し合いに移った。全12グループから出された意見は，共通するものが多かったが，掲載方法となると，様々なアイデアを発表していた。これらのアイデアの多くは，これまで作成してきているホームページで活用しているものであり，子どもたちは，これまでの成果を生かしながら，今後創り出そうとしている DVD のイメージを膨らませていたものと思われる。

Ⅱ　DVD 作成に向けてのグループづくり

全体の場は，これらの意見をまとめることをせずに終えた。今後の活動の方針決定については，リーダー会を組織し，そこでの話し合いを中心にして進めていきたいと考えたからである。

10人のリーダー会では，出された意見を大きく10項目に分類し，それぞれ１人のリーダーが１グループを担当することにした。グループは，「学校生活」「授業

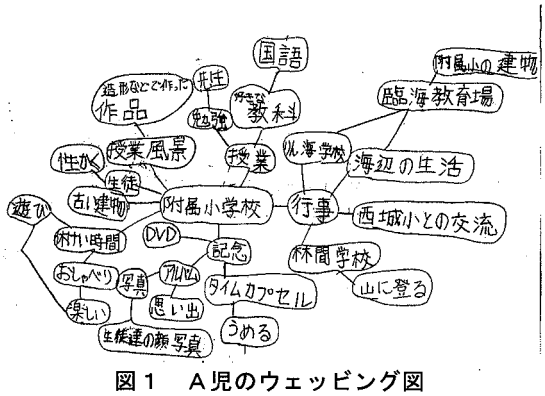


図１　Ａ児のウェッビング図

図２　グループでのウェッビング図

①（国語・社会・算数・理科）」「授業②（音楽・造形・家庭・体育）」「学校行事」「教育実習」「歴代校長，先生」「教育実習」「研究会」「学童疎開」「卒業生のその後」である。それから，全員に希望調査を行い，リーダー会でグループ編成を行った。

(4) 小単元「創立100周年記念の DVD づくりの情報を収集しまとめよう！」について

①ねらい

○ 自分たちが６年生のとき，創立100周年を記念する DVD づくりの意義を理解し，DVD に載せたいことや知りたいことについて調べることができる。

○ ホームページづくりの学習を踏まえ，調べたことを整理・加工し効果的に表現することができる。

○ これからの活動において，更に加える情報や整理の仕方について具体的に必要なこと（写真や書物，ビデオ映像，関係者へのインタビューなど）を挙げ，今後の見通しをもつことができる。

②小単元の概略（教材について）

本小単元は，「創立100周年記念 DVD づくりの計画を立てよう！」の次の段階である。

リーダー会が中心となって協議し提案していくという運営形態をとる。リーダーは各グループを組織することになる。グループは，「授業①」「授業②」「学校生活」「卒業生のその後」「疎開」「研究会」「校長」「行事」等で記録として残すのに相応しいと子どもたちが判断したものである。それぞれのテーマは，TOP ページの目次にあたる。

テーマ毎に調べ学習を進め，調べたものを整理・加工し内容の濃いものを作っていく活動になる。具体的な活動としては，附属小の関係者をお招きし，お話を聞き，ホームページ形式で各グループ毎にまとめていく。

この子どもたちは，４年生のときに「ひろしま再発見」という活動を行っている。このときに，戦時中疎開先であった比婆郡の西城小学校を訪れた。その近所にある当時の子どもたちが寝泊まりしていたお寺（全政寺）で当時の様子についてご住職にお話を聞き，戦時中の子どもたちの様子，附属小の様子について知ることができた。子どもたちは，昔の附属小の様子をこの活動において初めて知ったのである。この経験を生かして，リーダー会が必要テーマを挙げた。子どもたちは，「疎開」を附属小のなかで重要なテーマの１つであると考えた。

そこで，創立記念 DVD を作るにあたって，まずは，その疎開された方々をお招きし，自分たちの現在の様子と昔の様子を比較することで，更に具体的な構想をもった。

疎開された方々をお招きするにあたって，各リーダーがグループの人たちと何について詳しく聞くのか，何について質問をするのか検討をした。

疎開された方々から情報を収集し，それをホームページ形式でまとめた。まとめ方は，グループでの話し合いが基本となり，リーダーが他のグループとの調整を行いながらテーマ毎の特色が出るように配慮をした。

グループに１人パソコンの担当者を決め，その人がホームページ形式でグループの要望に応じてパソコンに打ち込んでいく。

今回の活動は，創立100周年記念 DVD づくりなので，自分以外の他の視点を意識したまとめ方をするために，内容，表し方に留意し，常にグループのメンバーがホームページ形式でまとめられているものをチェックし，適宜加工・修正を加えていく。そして，なるべく作っている DVD に卒業生や附属小の関係者の方に意見がもらえるようにし内容の充実を図る。

リーダー会は，グループのメンバーと相談し，意見を集約し，出てきた課題や反省を生かしながら，より質の高いものをめざし，常時活動を行っていく。

子どもたちの創意工夫によって発展する活動ができるようにすることが重要なポイントとなる。

③活動計画

Ⅰ DVD づくりへ向けてグループ毎の方向性の検討…… ２時間

Ⅱ 疎開を経験された附属小の卒業生をお招きしての情報収集…… ２時間

Ⅲ グループ毎の情報の整理・加工 …… ４時間

④授業の実際

Ⅰ DVD づくりへ向けてグループ毎の方向性の検討

〔リーダー会１〕

リーダー会では，この創立100周年 DVD づくりの子どもたちとしての目的について検討した。そして，各グループの方向性を決める前に，リーダー会によってどのような DVD を作っていくのか検討した。

〔全体会１・グループ分科会１〕

リーダー会で検討した DVD づくりの目的や目次項目について提案した。その提案に基づき各グループでどのようにまとめていくのか各グループで検討した。調べ学習などの情報収集を行う前の各グループによる構想段階である。グループ内での議論が活発になるようにするために，各リーダーが考えたものを提案した。それをグループのメンバーの意見などを取り入れグ

ループ毎の構想を固めていった。

〔リーダー会２〕

リーダー会では，疎開していたころの卒業生の方を2004年(平成16年)11月26日にお招きし，どのように会を進めていくのか検討した。お招きするのは，疎開当時３年生～６年生だった方々である。グループ内を４つに分け，それぞれが責任をもって各学年同一内容の質問をし，まとめるときの共通性を図っていくことにした。

〔全体会２・グループ分科会２〕

全体会で11月26日の運営計画の提案とグループ分科会においてどのような質問にするのか質問内容を検討するときの配慮事項について説明をした。

Ⅱ　疎開を経験された附属小の卒業生をお招きしての情報収集

前回提案されて運営計画に従って会を進行した。この日に来ていただいたのは，当時６年生だった方１名，当時５年生だった方２名，当時４年生だった方２名，当時３年生だった方１名である。

まずはじめに卒業生の方から子どもたちにぜひ知っておいて欲しいことについて全体でお話をしていだいた。自分たちの小学校時代のことや小学校卒業後のことについてお話された。

その後，当時６年生，５年生，４年生，３年生の方々に分かれていただき，個別でお話を聞かせていただいた。疎開をしていたときに，６年生だった方は，６年生として友だちと力を合わせて困難を乗り切ったことや，自分たちがしっかりとしなければならないと強く思っておられたことなどについてお話をされた。当時５年生だった方も，大変な思いをしながらも友だちと過ごしたことについてお話された。当時４年生だったお二人の女性は，女の子としてお父さん，お母さんと別れてとても寂しい思いをしたことや夜になると友だちが泣いていたことなどの話をされた。当時３年生だった方は，西城町での生活の様子や平和への願いなどについてお話されました。現在の様子を疎開当時の様子についての比較することであまりの大きな違いに改めて驚いていたようである。

子どもたちからのたくさんの質問もしっかりと答えていただき有意義な時間を過ごすことができた。

Ⅲ　グループ毎の情報の整理・加工

〔リーダー会３〕

リーダー会では，お話を聞いたことのまとめ方について話し合った。基本的に各グループ毎にホームページ形式でまとめるが，各グループ毎にまとめ方がばらばらにならないよう全体の構想を考えたつくりにすることを確認した。また卒業生の方々へのお礼のお手紙を書いた。

全体会３では，まとめ方について配慮することについて提案することを確認した。

〔全体会３・グループ別分科会３〕

全体会では，まとめ方の留意事項について検討した。その後，グループ毎に分かれて紙にホームページ形式でのまとめ方の下書きづくりを行った。グループのなかの１人がパソコンの担当者となり，グループで決まったことを打ち込む作業を行った。

〔リーダー会４〕

全体での共通性を図るために出来上がってきているHTMLファイルをみんなで確認し，再度修正・加工するための方法について検討した。

〔全体会４・グループ別分科会４〕

全員で，HTMLファイルの確認を行い，修正箇所や適切な表現表記について検討した。各グループに分かれ，検討したことを考慮し，再度修正を加えた。

(5) 小単元「創立100周年記念のDVDづくりを完成させよう！」について

①ねらい

○　創立100周年を記念するDVDづくりの意義を理解し，DVDに載せたいことや知りたいことについて調べることができる。

○　ホームページづくりの学習を踏まえ，調べたことを整理・加工し効果的に表現することができる。

○　写真やビデオ映像，関係者へのインタビューなどを取り入れ，DVDを完成させることができる。

②小単元の概略（教材について）

本小単元は，５年生から続いている「ディスカバー附属小」の最終段階である。

グループ毎にまとめたものに修正を加え，写真やビデオ映像，関係者へのインタビューなどを取り入れ内容を充実させる。

そのために，様々な年代の卒業生の方に来校してもらったり，アンケートに答えてもらったりする。来校してもらった卒業生の方には，グループ毎にインタビューし，当時の様子についてお話を聞く。また，自分たちが今までつくってきたDVDを見て，ご意見をもらい更に修正を加えていく活動を行う。また，同窓会の案内状にアンケートに答えてもらえるように呼びかけるプリントを入れさせてもらった。アンケートは，インターネットの掲示板を利用し，パスワードを入力してアンケートに答えてもらうことにした。これらの情報をもとにDVDを完成させていく。この４年間の活動によって情報活用の実践力十分に育成させると考

える。

③活動計画

創立100周年記念 DVD の完成・・・・・・33時間

④授業の実際

リーダー会が中心となり，常に活動の計画の立案し，と実行した。はじめは，疎開当時の方をお呼びしたように，様々な年代の方をお呼びしてお話を聞いた。そのお話を聞きながら，現在と過去を比較し，どのような違いがあるのか実感することができたようである。しかし，お呼びできる人や時間も限られてくるのでそれほど多く情報を収集する手段とはならなかった。そこで，より多くの人に答えてもらい，更に DVD づくりに興味をもってもらうために，同窓会の案内状を利用する方法を考えた。同窓会に無理を言って，自分たちが５年生のときから取り組んでいる活動を紹介し，アンケートに答えてもらえるプリントを入れさせてもらえるようにお願いした。その結果，多くの反応があり，たくさんのアンケートをいただくことができた。写真など当時の貴重な資料も送ってくださる方も増え，情報収集の方法についても学ぶことができた。情報が増えると，その整理に追われた。適切だと思える情報を集め，見た人が当時を懐かしむことができるようにする工夫も必要である。このように問題があれば，常にリーダー会が動き，全体の統一を図り DVD を完成させていくことにした。子どもたちはまだまだつくりたい様子ではあったが完成した DVD は，写真やビデオ映像，関係者へのインタビューなどが入った今までの記念誌とは違うものができた。

(6)子どもの感想

初めて私たちが100周年の６年生だと知らされたとき，あまりの偶然にびっくりしました。でも同時に誇らしく感じました。100周年に向けて，私たちはいろいろな役目がありました。そのなかでも，私は記念の DVD を作るリーダーを務めました。DVD づくりのためには，資料が必要です。電話をかけたり，手紙を書いたり，インターネットの掲示板を使ったりして資料を集めました。直接来ていただいて，お話をうかがったりもしました。特に，疎開中のお話には驚きが連続でした。食事や生活用水が不足していたこと，自分たちで畑を耕していたこと，それに，家族と何ヶ月も会えなかったこと。今の附属小を見てもそんな出来事があったとは想像できません。しかし，友だちと支えあって生活しているところは，今の附属小と全く変わりないと思いました。私は，附属小の児童として附属小の疎開について知ることができて本当に良かったと思っています。疎開がない今の生活を，しっかりと守っていける大人になりたい，と思いました。そして，卒業しても100周年の６年生として，積極的に学校を盛り上げていきたいです。

４．考察

子どもたちにとっては，３・４年での「ひろしま再発見」の延長線上に「ディスカバー附属小」が位置づいているであろう。

しかし，活動は似ていても，違う点がある。それは今回もっとも重点を置いていることでもある。まず，リーダー会中心とした活動にすることである。これまでの総合学習では，子どもたちのウェッビングを参考にしながらも，場の選択はすべて指導者側で行ってきた。それを，より子どもたち自身が進めていくためには，リーダー会による運営が欠かせなかった。リーダー会は，休憩時間などを使って，積極的な活動をしていることから判断して，現段階では十分満足できるほど機能していたと思われる。

また，今回の活動が，幅広い年齢層を対象とした DVD づくりになることを意識させることである。「ひろしま再発見」のホームページづくりは，その対象が保護者であったり友だちであったりと，身近な誰かであった。その意味では，絵日記をウェッブ上で公開しているような感覚であった。それが，今回は数十年前の卒業生から現在までと広がるのである。さらには，未来の卒業生へのメッセージも含まれてくるであろう。この点も，話し合いのなかで活発な意見が出ていたことから，子どもたちの目的意識が明確になっていると思われる。

６年生に進級してからの「創立100周年記念の DVD づくりを完成させよう！」では，３年生からの学習を土台とし，自分たちで DVD づくりを進めることができた。DVD づくりを進めるなかで，相手意識や他者意識が培われ，常に内容と表現を意識し，情報倫理についても自然に学ぶことができたのではないかと考える。また，膨大な情報から適切な情報を見つけ出し，加工し修正する活動によって，情報活用能力も培われたと考える。情報活用の実践力とは，適切な情報を収集し，加工し，発信する力である。３年生からこのサイクルの活動を繰り返してきたことで子どもたちには，情報に対する基本的な姿勢を身につけさせることができたのではないかと考える。この創立100周年記念の DVD づくりは，情報活用の実践力の質の向上のために有効な単元であったと考える。

５．おわりに

情報活用の実践力の育成のために４年間を通して活動してきた。「つくる」「見直す」「発信」のサイクルを

繰り返し行い，この活動を定着させることで子どもたちの情報活用能力は向上するものと考えて単元を構成した。結果，子どもたちは，私たちの想像を遥かに超え，創造的な活動に取り組むことができた。また，パソコンという機械を扱っていたが，情報を収集するためには，人との関わりがとても重要であると気づいたのではないかと思う。卒業生の方に失礼な質問をし，怒られたり，自分たちのつくっているものに賛同してくれたりという喜びや悲しみを味わうことができた活動だったと思う。情報活用の実践力というと人が情報だけを相手にしているように捉えがちである。しかし，情報を求めているのも人であるし，情報を提供してくれるのも人である。人間同士のつながりがベースになっていることについて改めて学ぶことができた活動だったのではないかと思う。